

2025 年 10 月 25 日（土）13：00～

大阪高松教区典礼研修会資料 2025 年 in 桜町共同司教座聖堂

はじめに

『典礼憲章』は、第 2 バチカン公会議（1962-65）の最初の公文書（1963.12.4 公布）。

第 2 バチカン公会議は、神に目を注ぐ『典礼』が教会の最優先課題であるとし、「典礼は教会活動が目指す頂点であり、同時に教会のあらゆる力が流れ出る泉である。」と宣言（典礼 10）。すべての典礼の原型であるミサは、イエスが弟子たちと共に最後の晩餐をしたことに由来し、復活のイエスに出会った弟子たちは、自分たちの信仰を確かなものとするためにミサを繰り返し行ってきた。そして弟子たちの後継者（司教）と司教の協力者（司祭）を通して、主が来られるまで執り行われる神への方向づけである。典礼祭儀は、キリストご自身の業であり、教会はキリストの死と復活による神の救いの業（聖体の秘跡と赦しの秘跡）に参加する。従って、典礼は、キリスト信者が神と出会い、また神が遣わされた方イエス・キリストと出会うための特別な場である。秘跡祭儀は、キリストと聖霊とにおける神の子らの御父との出会いであり、この出会いは、動作と言葉を介する対話という形で表現される」。（カテキズム 1153）

① エマオ途上の弟子たちとイエス

エルサレムでイエスの受難と死そして埋葬を目撃して落胆した二人の弟子が、エマオへ向けて歩きながら出来事の一切を論じ合っていた。（意識的・積極的参加）イエスも彼らの背後を歩きながらついて行き、彼らの話に耳を傾けて話の説明を求めた。弟子たちは、イエスを埋葬して三日目に婦人たちが墓へ行ったが、遺体を見つけることができず戻って来たこと。そして途中で天使が「イエスは生きておられる」と告げたこと、また仲間の何人か確かめるために墓へ行ったが、確かにイエスの遺体は見当たらなかったと話した。そこでイエスは聖書全体にわたって説明し、メシア（イエス）の死を神のご計画に基づいて理解するように論じた。

② エマオにて

弟子たちの目が次第に開かれ、「聖書を聞いていた時、心は燃えていたではないか」と。→イエスはパンを取り、賛美の祈りを唱え、裂いて、弟子たちに渡した。→すると彼らの目が開かれイエスだと分かった。

③ エルサレムにて

直ちに二人の弟子たちは、宣教の現場であるエルサレムへ戻り、イエスの復活を証した。

④ 典礼がもたらす力

エマオへ向かう二人の弟子たちの背後に（真の光）イエスはおられ、イエスの光に照らされてなかった彼らの目には闇と絶望しか見えなかった。エジプトにおけるイスラエルの民のように、暗闇は奴隷の状態、自由も喜びもない死の状態を意味した。人生の闇、それは自分の弱さ、脆さ、罪、汚れ、不安、絶望、自己の限界を指す。しかし、真の光であるイエスに照らされて歩めば、自分の影（暗）は常に背後にあり、自分の視界には入らない。闇から光へ、死から命へ、奴隷から自由へ、絶望から希望へ過越していく。

※ 典礼とは何か『カトリック教会のカテキズム』（以下、カテキズムと記す）

「典礼 (Liturgia)」とは、「公衆の名であるいは公衆のために行われる奉仕」という意味であり、新しい過越しの小羊キリストによって生まれた新しい神の民を表し、神の民の奉仕を意味する。『神の民』とは、この世の血族・部族や氏族・民族や国家ではなく、キリストが与えてくださった父である神との交わりから生まれ、『神のみ業』に参与することを意味している。典礼によって、わたしたちのあがない主、大祭司であるキリストは、教会の中で、教会とともに、教会によって、わたしたちの贖いの業を続けておられる。(カテキズム 1069)

I. 旧約の神の民・イスラエルの民は、Kahal⊙「神の民」（詩編 100 番）と呼ばれた。

① 神の名前

- ・天地創造の神：Adonai⊙「主」（創世記 1.1）
- ・アブラムに現れた神：El Shaddai⊙「全能の神」（創世 17.1）=Deus Omnipotens⊙
- ・モーセに現れた神：YaHWeH/JeHoVaH⊙〈聖なる四文字〉「わたしはあるという者」（出エ 3.14）

② 選びの目的

- ・神への礼拝：「わが民を去らせて、荒れ野でわたしのために祭りを行わせよ」（出エ 5.1）
- ・『祭』の語源：間を結ぶ/間をつり寄せる（神と人間とを結ぶ/間をつり寄せる）≠『無間地獄』

エジプトにおける 10 の災い・・・イスラエルの神に戦いを挑むエジプトのファラ王

- 1) 血の災い (出エ 7.14-24) : ファラオは、王宮に引き返し、心に留めなかった
- 2) 蛙の災い (出エ 7.25-29) : ファラオは、蛙が去れば、民を去らせ、犠牲を許可すると
- 3) ぶよの災い (出エ 8.12-15) : ファラオは、心を頑なにする
- 4) あぶの災い (出エ 8.16-28) : ファラオは、エジプトでの犠牲を許可 (モーセ拒否)
- 5) 疫病の災い (出エ 9.1-7) : ファラオは、心を頑なにする
- 6) はれ物の災い (出エ 9.8-12) : ファラオは、心を頑なにする
- 7) 雹の災い (出エ 9.13-35) : ファラオは、心を頑なにする
- 8) いなごの災い (出エ 10.1-20) : ファラオは、男性のみ許可 (モーセ拒否)
- 9) 暗闇の災い (出エ 10.21-29) : ファラオは、羊と牛は残し、妻子も許可 (モーセ拒否)
- 10) 主の過越 (出エ 11.1-10) : ファラオは、モーセの条件を全面的に受け入れる (エジプト脱出)

③ シナイ山で『神の十戒』の授与

神の民の三要素 ①「神への礼拝」 ②「神の律法遵守」 ③「倫理的生活の規範」(レビ 25.1-17)

④ 祭司制度

神は、祭司家としてレビ族を選び、大祭司にモーセの兄アロンを選出。祭司は、神の民の中で神と人との仲介役を担い、民全体が祭司の王国・聖なる民となる。神の民の召命と使命 (出エ 19 章・24 章)

イスラエル国旗のシンボル

・六角形のダビデの星：△神・イスラエル・モーセ律法 → ▽天地創造・贖われ・自由にする。

・アブラハムの子、ダビデの子、イエス・キリストの系図 (マタイ 1.1-17)



ユダヤ暦

ユダヤ暦の一年

月の順番	月の名称	太陽暦	祭 日	聖書に由来した祭り
第7月	ティシュリ	9～10月	1日 新年（ロシュ・ハシャナ）	
			10日 贖罪祭（ヨム・キプール）	レビ23.24-32
			15-22日 仮庵祭（スコット）	レビ23.33-36+39-43、申命16.13-15
			23日 律法祭（シムハット・トーラ）	
第8月	ヘシバン	10～11月		
第9月	キスレヴ	11～12月	25-翌月2日 光の祭り（ハヌカ）	
第10月	テベツ	12～1月	10日 エルサレム占領日	
第11月	シュバツ	1～2月	15日 樹木の新年（ツビ・シュバツ）	
第12月	アダル	2～3月	14日 仮装祭（プリム） （閏年では第2アダル月に祝う）	
第1月	ニサン	3～4月	15-21日 除酵祭・過越祭（ペサハ）	レビ23.5-8、申命16.1-8
第2月	イヤル	4～5月	18日 オメル オメル の33日祭（ラグバオメル）	
第3月	シバン	5～6月	6日 五旬祭（シャブオツ）	レビ23.9-22、申命16.9-12
第4月	タムーズ	6～7月	9日 神殿崩壊日	
第5月	アブ	7～8月	9日 アブ月の第九日祭（ティシャベアブ）	
第6月	エルル	8～9月		

※主の過越し（出エ12.1-51） ※除酵祭（出エ13.3-7）アビブの月を守り、あなたの神、主の過越祭を祝いなさい。アビブの月のある夜、あなたの神、主があなたをエジプトから導き出されたからである。（申命16.1） ※男子はすべて、年に三度、即ち除酵祭、七週際、仮庵祭に、あなたの神、主のみ前、主の選ばれる場所に出ねばならない。ただし、何も持たずに主のみ前に出てはならない。あなたの神、主より受けた祝福に応じて、それぞれ、献げ物を携えなさい。（申命記16.16-17）

イスラエルの祭り時の聖書朗読

* 新年祭（創世記 22）、プリム祭（エステル記）、過越祭（前日に除酵祭、過越の食事「Seder セデル」は食事の手順「Haggadah ハガダ」“あなたはこの日、自分の子供に告げなければならない。”）（出エ 13.8）に基づき、一家の主人が司会役を行う。 『過越祭』は、神の愛の物語。（申命 7.6～8）

過越しの食事（Sedar）の次第

イ）問答→ロ）讃美歌→ハ）語り→ニ）祈り（救いの業に一致）

- 1) キドゥシュ（神聖）第一杯 2) 手洗い 3) パセリ、レタス、塩水に浸して食べる 4) 種なしパン（マッツァー）を裂く 5) エジプト解放物語 6) 詩編 113～114 7) 第二杯 8) 手洗い 9) パンを配る 10) 苦菜、ハロセット（ワイン・リンゴ・ナッツ・干しブドウ・シナモンの混合物）に浸す
- 11) 過越しの小羊 12) 手洗い 13) 残りのパンを食べる 14) 感謝の祈りと第三杯（エリヤのため）

15) 詩編ハレルヤ 115～118 16) 第四杯 17) 詩編 136 (大ハレルヤ) 18) 結びの祈り

II. 新約の神の民・・呼び集められた民： Ec「外へ」 clesia「呼び出す」㊟=Church㊞=教会㊦

教会とは、「キリストにおける秘跡、神との親密な交わりと全人類一致のしるしであり道具である。」(教会憲章 1)『ケリグマ Kerygma 告げる→コイノニア Koinonia 交わり→ディアコニア』Diakonia 仕える

① 神の名前と選びの目的

・マリアよ、あなたは身ごもって男の子を生むが、その子をイエスと名付けなさい (ルカ 1.31)

・イエスは、神が父と子と聖霊の交わりの神と証し、呼び集めた民 Ecclesia (教会) =Christian (キリストに属する者) が、「わたしはある者」から「われらはある者」となるよう望んだ。イエスは、“わたしを信じる者は、わたしが行う業を行い、また、もっと大きな業を行うようになる。”と。(ヨハネ 14.12)

② 新約の過ぎ越しの食事

『最後の晩餐』→パンはキリストの体、葡萄酒はキリストの血

「新約の過ぎ越しの食事(ミサ)」の手順； 1) パンを取り→2) 感謝の祈りを捧げ→3) 裂いて→4) 弟子に与えた(キリストの体に一致「信仰の神秘」；主よ、あなたの死を告げ知らせ、復活をほめたたえます。

再び来られるときまで。

『最後の晩餐』の前に

・イエスは、ペトロとヨハネに過ぎ越しの食事を準備するようにと。そして食事の席で、「苦しみを受ける前に、あなたがたと共にこの過ぎ越しの食事をしたいと、わたしは切に願っていた。(ルカ 22.15-16)

・キリストの王的祭司職と預言職に弟子たちを任命し、弟子たちが典礼行為を通して、『キリストの復活』から成る過ぎ越しの三日間の出来事「主の晩餐」・「受難と死」・「復活」を信仰の原体験として記念するように命じた。(これが典礼である。) 主の受難と死と復活は不可分の出来事として祝われ、キリストの受難と死は復活の始まりであり、復活は受難と死の完成である。教会はキリストの復活の当日に遡る使徒伝承により、復活秘儀を八日目ごとに集まって祝い(典礼 106)、使徒の教え、相互の交わり、バ

ンを裂くこと、祈ることに熱心であった。(使徒 2.42)

Ⅲ. 主日 (主の日)

・主日は、「教会活動の頂点」(典礼 10)・「根元の祝日」(典礼 106) →上にあるものを求めよ！

ミサ典礼は、言葉の典礼 (み言葉の食卓) / 感謝の典礼 (感謝の食卓) をとおして、キリストの聖なる三日間の出来事を記念 (現存化) し、キリストとの交わりにおけるパンとぶどう酒の意味を深め、信者自身も新たにされる。

・司祭叙階までの過程 (公会議以前) ; 守門→読師→抜魔師→侍師→副助祭→助祭→司祭叙階 (役務的司祭職)。 (公会議以後) ; 朗読奉仕者 (Lectores) ; 聖書朗読と祭壇奉仕者 (Acolythus) ; 祭壇奉仕職を選任。助祭叙階 (Diaconate) ; 言葉の奉仕・典礼奉仕・愛の奉仕 (司教に結ばれた者として)、司祭叙階 (Sacerdos) ; 役務的司祭職 (司教との一致でキリストの役務的司祭職) →司教叙階 (Episcopus) ; 弟子の後継者 (教皇との一致のもとに普遍教会を構成し、司祭職の充満である)

・信徒使徒職 (教憲 4 章) : 神の民は、洗礼と堅信によりキリストの共通祭司職・預言職・王職に参与 (1 ペトロ 2.9)。教会と世界の中で自分の本文に応じてキリストを信ずる民全体の使命を果たす。信徒固有の召命は、神の広大なぶどう園において現世的な働き (家庭、教会、社会、世界) に従事し、それらを神に従って秩序付けながら神の国を追及する。司教に一致しながら意識的、積極的に典礼に参加し、豊かな実りを得るように心掛けるべきである。(典礼 11)

① 典礼への参加・・神と人との出会いの場であり交わりの場

典礼は、見えるもの「人間的」でありながら見えない要素に富み、活動に熱心であるとともに観想に励み、世の中にありながら旅するものである。(典礼 2)・・〈SYMBOL=象徴が必要〉

典礼は、(神による奉仕) : 神がキリストを通して人間を聖なるものとするために、感覚的な徴を用いて聖霊の恵みを与える。(人間側からの応答) : 神の愛に促されて、教会は頭であるキリストによって聖

霊とともに、典礼をもって神に公的な礼拝をささげる。典礼挙行者はキリストご自身、奉仕者はキリストに奉仕する者（カテキズム 1140）。

② 典礼奉仕の心

典礼は、セルフサービスではなく、互いに奉仕し合う喜び、一部の人の独占になってはならない。

美しい典礼を行う聖堂、典礼に用いる祭服・祭具・備品・飾りは、神の存在と価値を表す。

典礼に用いる祭具と目的

- イ) Calix（カリス）；葡萄酒を入れて備え、聖別し、拝領するための杯
- ロ) Purificatorium（プリアカトリウム三つ折りの清浄巾）；拝領の時、カリスを拭く時に用い
- ハ) Patena（パテナ）；ホスチアを乗せて備え、聖別し、拝領するための受け皿
- ニ) Hostia（ホスチア）；聖別されるキリストの御体（聖体）
- ホ) Palla（バラ）；カリスの上に載せる覆い
- ヘ) Corporale（コルポラーレ九つ折りの聖骸布）；カリスやパテナの下に敷く四角い麻布
- ト) Ciborium（チボリウム）；聖体を保存する時に用いる蓋付きの容器＝Pyxis
- チ) Mappa（マッパ祭壇布）・・・祭壇が食卓であることを思い起こす
- リ) Missare（ミッサーレミサ典礼書）・・・動作を含むミサ式次第、公式祈願、叙唱 etc.
- ヌ) Urceolus（ウルセオルス／Ampullae アンピュレ葡萄酒入れ）・・・葡萄酒や水を入れる器
- ル) Pelvis（ペルヴィス）／Vasaquae（ヴァス・アクエ）・・・手洗い用器
- ヲ) Manutergium（マヌテルジウム四つ折り）・・・手を洗った後、手を拭くための麻布
- ワ) Thuribulum（トゥリブルム香炉）・Navicula（ナヴィクラ香舟）神への捧げ物
- カ) Crux processionis（クルス・プロセシオニス）・・・行列を先導するために用いる十字架
- ヨ) Vas aquae benedictae（ヴァス アクエ ベネディクテ聖水器）／Asupersorium（アスペルソリウム灌水棒）
- タ) Ostensorium（オステンソリウム）；聖体顕示器
- レ) Campanula（カンパヌラ）；信者の注意を促すために用いる小鐘

典礼に用いる祭服

- イ) Amictus (アミクトゥス汗取り)；アルパの下に通常の服装が見えないように覆う
- ロ) Alba (アルパ白い布)；清い心を持って神に仕えたい望み
- ハ) Chingulum (チングルム帯)；服装を整える→奉仕 (Lk12.35-) や節制 (Mk1.6)
- ニ) Stola (ストラ十字架の意)；叙階によるキリストの代理者 (司教・司祭)
；叙階によるキリストの愛の奉仕 (助祭)
- ホ) Casula (カズラ小さな家 Casa 司教・司祭固有)；神の家に集まった家族の司式者
Dalmatica (ダルマチカ助祭固有)；奉仕に動きやすいよう配慮
- ヘ) Pluviale (プルーヴァレ・レインコート)；聖体行列/移動/賛美式、種々の祝福
- ト) Humerale(フメラレ・肩掛け)；聖体を保護する時に用いる

♪ **Hevenu Shalom Aleichem**『平和をあなたのために』(3回繰り返す)

Hevenu Sha-lom Aleichem Hevenu Sha-lom Aleichem Hevenu Sha-lom Aleichem Hevenu Sha-lom Sha-lom Sha-lom Aleichem

三本松教会・霊性センター担当

パウロ 西川康廣助祭